

# いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

## 三陸復興

第76号

平成26年12月1日号

### 復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。震災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

気温が氷点下を示す日もあり、平地にも雪が舞い、いよいよ本格的な冬が始まります。

復興に向けて歩み続ける岩手の明るい今を紹介します。

## 欧州からの支援・つながりに感謝 ～フランス パリで「岩手県復興報告会」開催～

欧州に東日本大震災の支援への感謝と復興の取組を伝える「『つながり』に感謝 東日本大震災津波岩手県復興報告会」が、11月7日(金)(日本時間8日)、フランスのパリ日本文化会館で開催されました。

来場者は、欧州各国の外交官、日仏の政府系機関や日仏交流組織など約250名。達増知事はスピーチで「岩手県民は必ず復興を果たし、国際社会の連帯に応える」と話し、国内外からの復興支援に対する謝意を伝えました。

また、震災後、岩手県で巡回展や高校生へのワークショップを開いたルーブル美術館のアンヌ＝ロール・ペアトリクス局長ならびに、陸前高田市の合同追悼式典で、被災マツで作ったバイオリンを演奏したイブリー・ギトリス氏から激励のメッセージが送られました。

その後、岩手県立岩泉高校の生徒が伝統芸能「中野七頭舞」を勇壮活発に演舞するとともに、一関餅つき隊が迫力ある餅つきを披露。レセプション会場では、餅や岩手県の地酒が振舞われ、復興や国際リニアコライダー(ILC)の取組を紹介するパネルも展示されました。

この報告会を通して、岩手県と欧州は、震災を経て生まれた「つながり」を強めたことを互いに実感し、今後の交流の継続と発展を誓うことができました。



岩手県の復興状況の報告を行う達増知事



力強い「中野七頭舞」を披露する岩泉高校生徒



息の合った迫力ある餅つき



餅や日本酒が振舞われたレセプション会場の様子

### 「いわて若者文化祭」で若者文化を発信！ いつだって「文化」をつくってきたのはワカモノだ

11月15日(土)、16日(日)の2日間、若者 **盛岡市** が日頃培った様々なジャンルの文化・芸術を発表し交流する場として、今回が初めての開催となる「いわて若者文化祭」が盛岡市内の3会場で行われ、3,000人を超える観客が詰めかけました。

一般公募等により、ステージ発表、映像等の上映、ブース展示など計96団体が出演・出展し、熱のこもった発表を行いました。また、本県出身・在住の各芸能・文化界を牽引する方々も大いに会場を盛り上げてくれました。

今回の「いわて若者文化祭」は、若者や文化芸術の力の更なる高まり、岩手の生活や魅力の向上、そして復興の成功と「希望郷いわて」の実現といった、岩手の新しい可能性を秘めており、来年度の開催を望む声も聞かれています。



クローゼンイベントに出演したみなさん

### 第2回「復興の現場見学会」開催

11月17日(月)、今年度2回目となる復興の **宮古市 山田町** 現場見学会(主催：岩手県)が、開催されました。

この見学会は、宮古・山田地区の震災復興の状況を住民に理解してもらうことを目的として行われたもので、当日は、住民17名が参加。山田町では、織笠川採卵施設と浦の浜地区農地海岸保全施設復旧・県有防潮林を見学。宮古市では、閉伊川水門、佐原地区災害公営住宅、市道北部環状線等、5ヶ所の復興の現場を見学しました。

時折小雨が降る中、見学会に参加した住民たちは、メモをとりながら、それぞれの担当者の説明を熱心に聞いていました。



宮古市閉伊川水門で説明を受ける参加者



織笠川採卵施設での作業の様子



### スマイル130 (いちさんまる) プロジェクト

スローガンは「130万人誰もが笑顔に」、活動のコンセプトは「県民の笑顔のために」、「感謝の笑顔(県外、世界に)届ける」。復興に取り組む県職員の気持ちを盛り上げ、県民と一体感のある復興に向けた取組を展開するプロジェクトです。スマイル130プロジェクトの取り組みの様子は以下の県HPをご覧ください！

<http://www.pref.iwate.jp/seisaku/smile/index.html>





# アジアからも復興支援！～香港で「東北観光物産展」開催～

11月12日(水)から18日(火)まで、イオン香港コーンヒル店において、「東北観光物産展」が開催されました。このイベントは、盛岡市に本社を置くイオンスーパーセンター(株)とイオン香港が協力して、香港の方々に東北の観光情報や特産品を紹介し、東北をより身近に感じていただきたいとの願いが一つになって実現したものです。

映像やパンフレットによる東北6県の観光情報の紹介と、東北各県のお米や果物等の販売が行われ、東北の魅力が存分にアピールされました。

また、会場には、岩手県ブースが特に多く設けられ、今年4月に全線復旧した三陸鉄道の映像・写真の展示や関連グッズの販売、南部鉄瓶による中国茶試飲会、南部杜氏の銘酒の試飲販売などが行われ、盛況をみせました。

今回のフェアには、東北と香港の人々の相互理解および東北復興に対するイオン香港の願いが込められており、これを契機として、今後より多くの香港市民が東北を訪れ、美しい自然、歴史や文化、温泉や美味しい食材に触れることが期待されます。



香港での東北フェア会場の様子



三陸鉄道コーナー



南部鉄瓶コーナー

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第30回目は、阿部 華帆さんを紹介します。

## PROFILE

大槌町出身  
岩手県立大槌高等学校1年生。  
父の影響で、5歳よりオートバイ競技のひとつであるモトクロス始める。  
東日本大震災津波発災時は小学6年生で、自宅が被災。震災と度重なるけがを乗り越えて、日本一の女性モトクロスライダーを目指し、トレーニングに励む。

## 夢を諦めず、夢を励みに

毎週末モトクロスの練習に励む阿部さん。東日本大震災津波で自宅が被災し「何もかも全部なくなってしまい、モトクロスをやれる状況ではなく、一度は辞めようと思いました。」と当時を振り返ります。

しかし、震災から1年半後の2012年秋には、

# 未来の さんりく びと

岩手県立  
大槌高等学校1年  
阿部 華帆  
(あべ かほ)さん



阿部さんからのひと言：  
モトクロスで  
大槌を明るく！

日本一の女性モトクロスライダーになる夢を諦めたくないという気持ちに加え、両親の後押しもあり、再び夢に向かって走り始めます。

東北では数えるくらいしかない女性モトクロスライダーとして大会に出場する阿部さん。

「震災後、改めてモトクロスの楽しさが分かりましたし、応援してくれる人も増え、励ましの声援もたくさん頂いているので、もっと頑張らなければという気持ちが大きくなりました。私が成績を残すことで、大槌や被災地に明るい話題をもって帰り、みなさんを元気づけたいと思っています。」と今の心境を語ります。

## 明るい大槌町になることに期待を寄せて

「震災から時間が経ってもまだ平らな土地ばかりで、あまり変わってないような気がします。自分たちが働いたりして力になることは難しいかもしれませんが、大槌や被災地が新しく、大きく、明るい町になってほしいと思います。」と、未来の大槌町へ期待を寄せました。

## 岩手県の被害状況

平成26年10月31日現在

- ▶人的被害 死者(直接死): 4,672名 行方不明者: 1,132名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,716棟

## 皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年10月31日現在

- ▶義援金受付状況 約181億8,762万円(90,154件)
- ▶寄付金受付状況 約195億9,661万円(7,023件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約70億3,655万円(14,081件)

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第76号 平成26年12月1日号 企画・発行: 岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷: シナプス